

令和7（2025）年度 地域連携教員研修 実施報告

実施日：令和7年11月20日（木）

本研修は、地域連携教員の活動について学び、学校と地域の連携の進め方を考えるなど、学校と地域が連携した教育活動を展開するために必要な知識や技術を高めることをねらいとしています。受講者の校種ごとに会場を分けて、研修を実施しました。

【小学校・中学校（以降小・中）】

○事例研究・研究協議「地域の教育資源を生かした教育活動の充実に向けて」

那珂川町立馬頭小学校 教諭 細井 愛 氏
佐野市立赤見中学校 教諭 前原 延之 氏
総合教育センター職員

はじめにそれぞれの会場で1名ずつ地域連携教員が登壇し、各校の活動についての発表がありました。馬頭小学校の細井先生からは、地域連携推進のテーマである「ふるさとつながり、未来に向けて粘り強く挑戦する子供の育成～地域の自然・ひと・もの・ことを生かした教育活動の充実～」に基づき、熟議を通しての取組や実践について発表がありました。児童会活動や、馬頭中学校・馬頭高等学校との連携事業、各教科及び環境整備での取組・実践など多くの事例などを紹介されました。赤見中学校の前原先生からは、地域コーディネーターとの連携や梅園活動、小中連携のボランティア活動の3つの取組について発表がありました。その中で、地域コーディネーターの感じていることや課題についても話されました。

続いて、受講者はグループごとに発表内容についての感想や疑問点を共有し、質疑応答を通して、地域連携に関する取組や成果・課題等について理解を深めました。その後、各校で取り組んでいる地域連携活動について持ち寄った写真を用いて説明や意見交換を行い、成果や課題を捉え直しました。



○講話・演習「地域の教育資源の生かし方～学校と地域の連携・協働の推進を目指すために～」（小・中）

国立教育政策研究所生涯学習政策研究部 総括研究官 志々田 まなみ 氏

講話・演習は、小・中合同で実施されました。

はじめに、学校には多様な児童生徒が在籍し、個別最適な学びと多様性の包摂が急務であり、「標準」「普通」といった一律指導は不適切で、柔軟な教育が必要であることが課題として提示されました。その解決には、学校教育活動の充実と、地域活動・家庭教育の充実を両輪で進めることや、学校を核とした地域づくりが重要であることを具体例とともに話されました。学校と地域の連携は、教育課題の解決だけでなく、地域コミュニティの再生にもつながること、地域資源の可視化と活用により、学校教育と社会教育の両面で持続可能な協働体制を構築することが求められることを強調されました。また、学校と地域のコーディネーター役が円滑に活動できるための条件も示され、受講者はコーディネーター役が活動しやすい環境作りに関するヒントを得られたようです。



○情報共有「地域との連携・協働の推進を図るためにできること」

総合教育センター職員

事例研究・研究協議や講話・演習の内容を受けて、地域とのさらなる連携・協働の可能性を探るための情報共有を行いました。活動を持続可能なものにしていくための方法や、コーディネーターとの効果的な連携の方法など、グループでアイデアを出し合いながら、今後の方策について話し合いました。

研修を通して受講者は、今後の地域連携活動に関する多くの手がかりを得るとともに、地域連携への意欲を高めることができたようです。

【高等学校・特別支援学校（以降高・特）】

○講話・演習「学校の特性に応じた教育資源の生かし方～学校と地域の連携・協働の推進を目指すために～」 国立教育政策研究所生涯学習政策研究部 総括研究官 志々田 まなみ 氏

高・特の講話・演習では、社会は VUCA の時代に入り、学校教育は「社会に開かれた教育課程」へ転換し、学校運営協議会やカリキュラム・マネジメントを通じて、地域資源を活用した授業改善を進めていくことの重要性について説明がありました。高・特における地域連携は、教育課題の解決と地域創生の両面で重要であり、コーディネーターの機能強化と地域資源の活用が持続可能な教育体制の構築が必要であることを強調されました。また、志々田先生からの問い合わせについてグループで話し合う場面が多くあり、受講者は、自校の取組を振り返りながら、熱心に協議していました。



○研究協議・情報交換「地域の教育資源を生かした教育活動の充実に向けて」

総合教育センター職員

3 部構成で研究協議・情報交換を行いました。第 1 部では、午前中の講話の振り返りとして、講話の中で得たことや疑問に思ったことなどをグループで共有しました。第 2 部では、地域の特性を整理し、それぞれの学校が「地域に提供できるもの」「地域から得たいもの」を個人で考え、その後、グループで地域を巻き込んだ具体的な連携企画のアイデアを出し合いました。第 3 部では、地域連携教員の意義と役割、期待を再確認するとともに、具体的な先進事例・活動事例等の紹介を行い、受講者に地域の教育資源の捉え方について考えてもらいました。



☆ 受講者の声（アンケートから）

- ・児童の学力向上について地域連携と大いに関わりがあることを知りました。学校で学力をつけるために授業力を高めるのは教師の務めですが、家庭環境を学習に向けていくことも学力向上に必要だと感じました。今後は、地域連携教員として、「学校・家庭・地域」の声をつなぐことに意識を向いていきたいと思います。
- ・多くの学校で増えてきているコミュニティ・スクールですが、管理職や地域連携教員等の担当者が異動となりいなくなっていても、コミュニティ・スクールや学校支援ボランティア等が持続可能となっていくことも大切だと思います。
- ・午後の研究協議・情報交換の時間で、高等学校の先生から、企業との連携では商工会議所を通すとよいことを知りました。地域連携を行うにあたって、このようなちょっとした工夫などを知る機会があり、よいと思います。
- ・一人ひとりの背景や特性を尊重し、地域の多様な人材とつながることで学びの場を広げていくことが重要だと感じました。日ごろの教育活動においても、生徒が安心して自己を発揮できる環境づくりに努め、地域資源を積極的に活用した学びを進めていきたいと思います。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tohigi.lg.jp